東京堂書店フェア

現代企画室編集者が選ぶ

現代を読むための本

世界を多元的に切り拓く眼差し――現代企画室の「視線」フェア

2012年5月1日～

現代企画室編集長、太田昌国・選

「暴力の時代」として幕開けしまった21世紀も、10年有余が過ぎた。植民地支配と戦争を頂点とする国家の「暴力」を、なぜ、人類は廃絶することができないのか。その「暴力の行使」を当然として受け入れる価値観は、個人のレベルにもひたひたと浸透して、日常的な感性を形成する。国家と個人の双方を蝕む「暴力＝戦争」が起こる歴史過程を分析し、その渦中で苦しみ、それに抗い、それを批判し、そして〈類〉としての人間が目指すべき調和的な社会を構想した書物群を集めてみた。この30冊の書物の中には、人類史が駆け抜けた数万年の歴史が詰まっている。

問題の発生

1 ｜ラス・カサス『インディアス破壊を弾劾する簡略なる陳述』（現代企画室、1987）
2 ｜藤永茂『「闇の奥」の奥』（三交社、2006）
3 ｜エメ・セゼール『帰郷ノート・植民地主義論』（平凡社、1997）
4 ｜本多勝一『マゼランが来た』（朝日文庫、1992）
5 ｜山田昭次『関東大震災時の朝鮮人虐殺』（創史社、2003）
6 ｜ハワード・ジン『学校では教えてくれない本当のアメリカの歴史』（あすなろ書房、2009）
7 ｜ジャック・ロッシ『ラーゲリ　強制収容所註解事典』（恵雅堂出版、1996）
8 ｜中野ほか編『沖縄の占領と日本の復興』（青弓社、2006）
9 ｜バオ・ニン『戦争の悲しみ』（めるくまーる、1997／新装版＝河出書房新社、2010）
10 ｜林博史『米軍基地の歴史』（吉川弘文館、2012）

問題の渦中で

11 ｜マリヤ・ギンブタス『古ヨーロッパの神々』（言叢社、1998）
12 ｜ミシェル・フーコー『監獄の誕生』（新潮社、1977）
13 ｜山極寿一『暴力はどこからきたか』（NHK出版、2007）
14 ｜サルトル『植民地の問題』（人文書院、1965）
15 ｜金英達著作集Ⅱ『朝鮮人強制連行の研究』（明石書店、2003）
16 ｜永原陽子編『「植民地責任」論』（青木書店、2009）
17 ｜フランツ・ファノン『地に呪われたる者』（みすず書房、1969）
18 ｜マフマルバフ『アフガニスタンの仏像は破壊されたのではない、恥辱のあまり崩れ落ちたのだ』（現代企画室、2001）
19 ｜リーアン・アイスラー『聖杯と剣』（法政大学出版局、1991）
20 ｜若桑みどり『戦争とジェンダー』（大月書店、2005）
21 ｜徐勝／前田編『文明と野蛮を超えて』（かもがわ出版、2011）
22 ｜サム・キーン『敵の顔――憎悪と戦争の心理学』（柏書房、1994）

〈類〉に向かって

23 ｜金関／春成編『佐原真の仕事 4　戦争の考古学』（岩波書店、2005）
24 ｜ピエール・クラストル『国家に抗する社会』（水声社、1987）
25 ｜ハンナ・アーレント『暴力について』（みすず書房、2000）
26 ｜網野善彦『「日本」とは何か』（講談社、2000）
27 ｜吉本隆明『アフリカ的段階について』（春秋社、1998）
28 ｜マルコス『サパティスタの夢』（現代企画室、2005）
29 ｜宮地尚子『環状島・トラウマの地政学』（みすず書房、2007）
30 ｜ジョン・ホロウェイ『革命』（河出書房新社、2011）
31 ｜河原ノリエ『いのちのかなしみ』（春秋社、2012）

現代企画室小倉裕介・選

私の社会人生活は 1997 年、小社の代表でもある北川フラムのもとで、新潟県の中山間地で展開する「大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ」に取り組むことから始まった。それから約 15 年、諸先輩の言動やさまざまな書物を導き手に、学生時代までに固まってしまった薄っぺらだけど妙に強固な常識を突き崩す作業を、今もなお続けている。その常識とは、大掴みに言えば、都市、あるいは近代の価値観だと思う。 現代企画室ではこれからも、具体的な場所や運動に直接たずさわる、いわば大地に接した低い目線から、世の中の常識にクエスチョンを突きつけるような本づくりをていねいに続けていきたい。出版の形態がどうなっていくにしても、一歩立ち止まって考える時間をつくることが、本にしかできない大切な役割だと思うから。

都市への問題提起

1 ｜原広司『集落の教え 100』（彰国社、1998 年）
2 ｜北川フラム『希望の美術・協働の夢』（角川学芸出版、2005 年）
3 ｜太田昌国『暴力批判論』（太田出版、2007 年）
4 ｜谷川健一『鍛冶屋の母』（河出書房新社、2005 年）
5 ｜鶴見俊輔『限界芸術論』（ちくま学芸文庫、1999 年）
6 ｜網野善彦『「日本」とは何か』（講談社学術文庫、2008 年）
7 ｜宮本常一『日本文化の形成』（講談社学術文庫、2005 年）
8 ｜『粟津潔　荒野のグラフィズム』（フィルムアート社、2007 年）
9 ｜レヴィ・ストロース『野生の思考』（みすず書房、1976 年）
10 ｜ソシュール『一般言語学講義――コンスタンのノート』（東京大学出版会、2007 年）